

**後期計画の策定に向けた地域検討会議（第2回気仙ブロック）会議録**  
**【気仙ブロック：大船渡市、陸前高田市、住田町】**

○ 日 時：令和元年5月20日（月）9時30分～11時30分

○ 場 所：大船渡地区合同庁舎 4階 大会議室

○ 出席者

① 会議構成員

大船渡市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

陸前高田市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

住田町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

② 事務局（県教育委員会）

沿岸南部教育事務所（資料「出席者名簿」のとおり）

県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）

○ 傍聴者：一般2人、報道2人

○ 会議の概要

◆ 議題及び報告事項

1 平成31年度の入試状況について

【県教委】

- ・ 資料No. 1-1「平成31年度の入試状況について」、資料No. 1-2「平成31年度岩手県立高等学校募集定員・合格者数等一覧表（全日制）」に基づき説明。

2 第1回地域検討会議における主な意見等

【県教委】

- ・ 資料No. 2「第1回地域検討会議における主な意見等」に基づき説明。

【戸田 大船渡市長】

- ・ 資料No. 1-1「平成31年度の入試状況について」では、中学校卒業生数と募集定員を比較すると募集定員が少ないが、この理由は何か。

【県教委】

- ・ 資料の数値は県立高校の募集定員のみであり、私立高校と盛岡市立高校は含まれていないもの。高校進学率は99.5%を超える状況であり、県全体で中学校卒業生数を下回る募集定員としているものではない。

3 後期計画策定に向けた意見交換

＜意見交換テーマ＞

(1) 小規模校のあり方について

(2) 少人数学級について

(1) 小規模校のあり方についての御意見

【県教委】

- ・ まず、小規模校のあり方について事務局から説明させていただき、その後、このことについて御意見をいただきたい。

#### 【県教委】

- ・ 資料 No. 3「新たな県立高等学校再編計画の概要」、資料 No. 4「小規模校のあり方について」に基づき説明。

#### 【戸田 大船渡市長】

- ・ 小規模校のあり方については非常に難しい課題である。気仙ブロックの総合格者数が平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間で 550 人から 424 人に減少しており、大船渡市の出生数データを見ても、急激に出生数が減少した世代であり、13 頁の数値と一致している。大船渡市の出生数は、今後 10 年間は緩やかに減少しながら推移し、その後、減少に転ずる見込みである。
- ・ 現在の 1 学級から 3 学級の高校が、10 年後、どのような状況になっていくのか、市町としても覚悟を決めていかなければならない。
- ・ 生徒、保護者の多様な進路希望がある中、小規模校では授業の開設科目に制限があることから、生徒の進路希望を叶えるため積極的に情報を公開し、高校の選択がきちんとなされることが重要である。その上で、人口減少や高齢化が進行する社会状況を生徒に伝えていく教育も必要である。

#### 【門田 大船渡市 P T A 連合会】

- ・ 気仙地区では住田高校が 1 学級校に該当するが、県教委としては、他の地区と比較して、統合しやすい地域であると考えているのか。

#### 【県教委】

- ・ 気仙地区については、現在、前期計画では 3 校（大船渡高校、大船渡東高校、高田高校）の学級減を計画しており、そのうち 2 校について学級減を進めてきたところ。後期計画は、今後策定するものであり、現在のところ具体的な統合の対象校を考えてはいない。
- ・ 小規模校については、地域にとって必要とされる学校について、課題を解消しつつ残していく方向性もあれば、教育の質の保証の観点から統合していくことも選択肢となる。これはどの地区でも同様である。

#### 【伊東 陸前高田商工会会長】

- ・ 地域の将来を担う人材を育成するのが地域の高校であり、また、部活動や地域の行事を通じて地域の元気・活気の源となっている。
- ・ 生徒数の減少等、様々な課題が出てきており、地域全体の問題として捉えていく必要がある。子供や孫など就学中の生徒がいない世帯については、地域の高校の状況や、生徒数が減少している現状に関心が無くなっており、地域の住民に危機感を持ってもらうことが必要である。各種の団体と連携しながら、町全体で課題解決への取組みを行い、地域が一体となり盛り上げていくことが必要である。

#### 【松高 気仙地区小・中学校長協議会会長】

- ・ 気仙地区には普通科が 3 校（大船渡高校、高田高校、住田高校）あり、第 1 回地域検討会議における中学生アンケート結果によれば、県内で普通科を希望する生徒は 56.0%であるのに対し、気仙地区は 67.9%となっており、普通科志望の生徒が多い結果となっている。
- ・ 中学校の段階で、将来の職業を決めている生徒は少数であり、普通科に入学してから将来の選択肢を考える生徒が多い。
- ・ 気仙地区にある 3 校の普通科は、それぞれ役割を担っていると感じており、住田高校へ進学する生徒は町からの支援もあり、メリットを感じている。他の地区とは異なり、生徒が目的を

持って進学している状況であり、このままの体制を継続していただきたい。

**【菊池 住田町教育委員会教育長】**

- ・ 他県では、地域との十分な意見交換が行われないまま高校再編計画が示されることもある。岩手県は非常に丁寧に意見を聞きながら、時間をかけて進めていることを高く評価する。
- ・ 気仙地区の4つの高校（大船渡高校、大船渡東高校、高田高校、住田高校）は特色が異なり、それぞれが他校にはない良さを持っており、バランスを保ちながら各校の役割を果たしている。
- ・ 住田高校は1学級校としての役割を果たしつつ、1学級を2つに編成することで、きめ細かな指導を実現しており、教員と生徒との距離感も近い。町との関係も良好であり、存続に向けた支援を続けたいと考える。
- ・ 現在、小中学校は35人学級となっており、高校にも導入すれば定数のメリットがあると考ええる。

**【千葉 住田町商工会副会長】**

- ・ 地域の現状を踏まえると、住田高校は地域の特色を活かした住田町らしい高校として存続させていく必要があることから、町の特色をさらに生徒に伝えていきたいと考える。
- ・ 高校の再編により、経済的な理由から高校に通学できない生徒が将来的にも生じないようにしていただきたい。

**【金 陸前高田市教育委員会教育長】**

- ・ 生徒数の減少による1学級校の存続については、全国的に共通する課題である。
- ・ 課題の視点が学校規模となっているが、これからは、少子高齢化が進み、一人ひとりが質を高めなければならない時代に突入していく。質を変えていくために知恵やIT等を活用しなければ社会が成り立たなくなる。
- ・ 学校規模も大事な視点であるが、小規模校でも地域の実情に合わせた質の向上を色濃く打ち出し、生徒一人ひとりへの教育の質をどのように高めていくか、違う視点で膨らませていくことが必要である。

**【戸田 大船渡市長】**

- ・ 労働人口の減少と、高齢者化社会の中で、行政サービスの維持のため1人あたりの生産性の向上が必要となることから、そのような時代を背負う今の生徒達には、生産性の向上に向けた教育が大切になる。

**【神田 住田町長】**

- ・ 生徒数の減少が進み、数の原理となるのは小中学校についても同じ状況であるが、子供達への教育はどうあるべきかの視点を踏まえて考えていかなければならない。
- ・ 生徒の学習に対する希望や将来の希望を叶える環境づくりを進める課題がある中で、工夫すれば解決できる手法もあるのではないかと考える。大学入試に関わる制度改正等、社会の流れに合致した教育のあり方が必要である。
- ・ 教育の質に関わる都市部と地方との格差や、教育の質も異なることから、地方における教育の質の維持について、岩手県全体として知恵を出しながら取り組んでいくことが重要と考える。

**【小松 大船渡市教育委員会教育長】**

- ・ 気仙は1つという言葉があり、それぞれの学校において特色ある学校経営を進めているが、中学生は自分の進路目標を、私立高校も含めた地区外の学校にも選択肢を広げている現状があ

る。

- ・ 地区内の生徒が減少する中で、今後の5年間ではなく、10年後を見据えた検討も進めていかなければならないのではないかと考える。

**【県教委】**

- ・ 各高校において、地域の現状を把握した上で、地域課題の解決に向けた探究活動を取り入れる学習活動を推進している。
- ・ 教育の質を高める手法として、一定の学校規模を設けることで教科の科目や部活動などの選択の幅を拡げることができるが、小規模校については、ICTの活用や教員の学校兼務により教育の質を高める取組を行っている。
- ・ 後期計画は令和7年度までの5年間の計画となるが、その先も見据えた長期的な計画も必要と考える。

**(2) 少人数学級についての御意見**

**【県教委】**

- ・ 次に、少人数学級について事務局から説明させていただき、その後、このことについて御意見をいただきたい。

**【県教委】**

- ・ 資料 No. 5 「少人数学級について」に基づき説明。

**【伊東 陸前高田商工会会長】**

- ・ 少人数学級の導入を望む声があり、全国でも約半数の都道府県が取り入れている状況であるが、この制度の導入により、教員の数が減るというジレンマが生じてくる。
- ・ 制度そのものの見直しをさらに強く要望していく必要がある。県単独ではなく、他県との連携を図り、地域住民の関心を集めながら強く制度改正を要望していくことが大切である。

**【小松 大船渡市教育委員会教育長】**

- ・ 現在、小規模校の1学級当たりの在籍生徒数については、実質的には少人数学級となっている実情を踏まえ、教員定数は現状のままとし、それぞれの学校で創意工夫を図った少人数教育に取り組むことで、生徒にとってきめ細かな指導が可能となる。

**【門田 大船渡市PTA連合会】**

- ・ 県教委としては、本県における少人数学級の導入をどのように考えているか。

**【県教委】**

- ・ 現行の制度の下では、少人数学級を導入した場合のデメリットが大きいと考えている。ただ、教員定数改善については、これまでも国への制度改善要望は行っている。
- ・ 他県の状況としては、専門学科では、少人数学級を導入している例があり、実習などのきめ細かな指導が必要な教科についてはメリットがある。また、普通科では学級減を緩やかに進める手法として導入している例はある。

**【伊東 陸前高田商工会会長】**

- ・ 教員数の関係以外にもデメリットがあるのか伺いたい。

**【県教委】**

- ・ 現行制度のままであれば、1学級の定員を40人とする方が教員数を維持できることから、より充実した教育ができると考える。
- ・ 少人数教育については、様々な工夫により各高校で取り組まれている。制度が改正されれば、それに対応した学級編制等となることは十分考えられる。

**【松高 気仙地区小・中学校長協議会会長】**

- ・ 中学校においても、授業以外の部活動や教育相談など様々な業務に対応するためには、教員数が必要であり、教員数を維持することが現場としてもやりやすいと考える。

**【神田 住田町長】**

- ・ 教員数の確保は大事であり、少人数学級の導入に向けては県教委の考えのとおり進めるべき。
- ・ 住田高校は、2学級編成を導入した少人数教育により実績を上げてきている。教員が働きやすい環境となるよう工夫しながら進めていきたいと考える。

**【県教委】**

- ・ 少人数教育と少人数学級は相反するものではない。少人数教育には様々な形態があり、少人数学級はその1つであると考えていただきたい。
- ・ 高校標準法による教員定数は募集定員で決定され、生徒数で決定される義務教育とは異なるもの。岩手県以外の県でも国に対する定数改善要望は行っているが、十数年改善されていない。

**【門田 大船渡市PTA連合会】**

- ・ 小規模校はそれだけでデメリットとなるのか。また、住田高校が1学級を2学級に分けている理由はなぜか。

**【県教委】**

- ・ 住田高校は割り当てられた教員数で工夫により授業等を行っているもの。

**6 その他**

**【泉田 住田町産業関係者代表】**

- ・ 沿岸部と内陸部の教育格差の是正について、県としてどのような目標を掲げて取り組んでいるのか。

**【県教委】**

- ・ 沿岸部、内陸部を問わず、必要な学校規模等の工夫を考慮しており、小規模校についてもICTの活用や教員の兼務等に取り組んでいきたいと考えている。また、県としての学力向上に向けた取組については、地域を問わず希望に応じて参加することが可能となっており、こうした機会を整えていくことを考えている。

**【県教委】**

- ・ 資料 No. 3 で県立高校の再編計画の概要を示しているが、再編計画は平成28年度からの10年間の計画として策定しているものであり、前期計画の中で気仙地区においては大船渡高校、大船渡東高校の学級減を行ったところ。令和3年度から後期計画を策定するため皆様から意見をいただいている。

- 再編計画は教育の質の保証と教育の機会の保障を柱としており、その考えを基本として推進している。教育に対する県と地域の考え方は共通であることから、2つの柱の両方の実現に向けて、共に考えていかなければならないことと捉えている。
- 現実問題とすれば、決められた法律、規則など制約がある中で、教育の質の保証と教育の機会の保障をすべてパーフェクトに両立させることには難しい面があるが、この2つを重視しながら再編計画を進めていく考えである。後期計画の策定に向けては、各地域の皆様の様々な知恵や御意見をいただきながら進めていきたい。

## 後期計画の策定に向けた地域検討会議(第2回)【気仙ブロック】

## 出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	大船渡市	戸田 公明	大船渡市長	
2		新沼 邦夫	大船渡商工会議所 専務理事	
3		門田 晃明	大船渡市PTA連合会	
4		小松 伸也	大船渡市教育委員会 教育長	
5	陸前高田市	伊東 孝	陸前高田商工会 会長	
6		金 賢治	陸前高田市教育委員会 教育長	
7	住田町	神田 謙一	住田町長	
8		泉田 浩喜	住田町産業関係者代表(畜産)	
9		千葉 和三	住田町商工会 副会長	
10		小山 富孝	住田町PTA連合会 会長	
11		菊池 宏	住田町教育委員会 教育長	
12	地区中学校長代表	松 高正俊	気仙地区小・中学校長会協議会 会長(大船渡市立第一中学校長)	

## 【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
13	県立高等学校	継枝 斉	高田高等学校 副校長	
14		吉田 祥	大船渡高等学校長	
15		大木 由里	大船渡東高等学校 副校長	
16		菅野 誠二	住田高等学校長	

## 【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
17	県教育委員会 事務局等	加藤 暢之	沿岸南部教育事務所長	
18		梅津 久仁宏	教育次長	
19		木村 克則	学校調整課首席指導主事兼総括課長	
20		里舘 文彦	学校教育課首席指導主事兼高校教育課長	
21		藤澤 良志	学校調整課特命参事兼高校改革課長	
22		谷地 信治	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
23		市丸 成彦	学校調整課高校改革担当指導主事	
24		小野寺 一浩	学校調整課高校改革担当指導主事	
25		女鹿 光介	学校調整課高校改革担当主査	